



水田稲作を中心とした日本農業の展望と 作物生産科学の果たすべき役割

平成23年3月31日(木) 13:00~17:00

- 会場** 東京農業大学農学部(厚木キャンパス)
主催 日本学術会議農学委員会農学分科会
共催 同育種学分科会、同土壌科学分科会、日本育種学会、
日本園芸学会、日本作物学会、日本土壌肥料学会
後援 東京農業大学、(独)農研機構

わが国農業は水田稲作を中心に展開してきたが、近年のコメ消費の低迷による生産の減少、高齢化等による耕作放棄水田の増加、食料自給率向上に向けたダイズ、コムギ、飼料用イネ生産による水田利用の多様化などが進んでいる。また、水田、イネ等に関する研究はこれまで大きな成果を挙げてきたが、このような状況に対応した新たな挑戦も始まっている。

本シンポジウムでは、水田・稲作の歴史的・文化的価値を再確認するとともに、水田における作物生産に関する最近の研究成果と新たな試みを紹介し、今後の展望と作物生産科学の果たすべき役割・連携のあり方等について、一般市民、学生、研究者等とともに考えてみたい。

プログラム

- 13:00-13:10 開会挨拶(趣旨説明)
大杉立*(東京大学大学院教授)
- 講演
- 13:10-13:55 基調講演
日本人にとってのイネと稲作:「アジア稲作圏」の一員として
田中耕司*(京都大学次世代研究者育成センター特任教授)
- 13:55-14:30 休耕田を利用して国産飼料の自給率を向上させる飼料用イネ品種の
開発(育種学の立場から)
加藤浩((独)農研機構作物研究所)
- 14:30-15:05 日本の食と農のデザインのための作物生産科学
—持続的な消費と生産を目指して—(作物学の立場から)
森田茂紀(東京大学大学院教授)
- 15:05-15:40 稲作に園芸生産を加えた営農の発展(園芸学の立場から)
高樹英明(山形大学名誉教授)
- 15:40-16:15 水田稲作の環境保全機能(土壌肥料学の立場から)
木村真人*(名古屋大学大学院教授)
- 16:15-16:55 総合討論:日本人にとってのイネ・水田の重要性
司会:奥野員敏*(筑波大学大学院教授)
山内章(名古屋大学大学院教授)
- 16:55-17:00 閉会挨拶
矢澤進***(京都大学大学院教授)
- ** :日本学術会議会員
* :日本学術会議連携会員

参加費無料。直接お出でいただいても結構ですが事前に登録いただけるとありがたいです。

事前登録
問い合わせ先

日本学術会議農学委員会農学分科会 委員長 大杉立*(東京大学大学院農学生命科学研究科)
〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1
TEL: 03-5841-5041,5193 FAX: 03-5841-8048 E-mail: aohsugi@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

